

ケニア・キャンプ&クリスマス！



ケニアでは、いよいよクリスマスの準備が始まります。

アフリカでのメトロの働きは、ケニアをはじめ、各国に急激に広がっています。様々な民族と宗教が混在するアフリカで、ほとんどが公立学校内での授業の一環として、日曜学校が開催されているのは、画期的なことです。対象の子どもたちの人数は、学校単位で何千人も増えていきます。神様が次々と扉を開き、すばらしいチャンスを与えてくださっていることを感謝します。



ケニアは、9月に学校の年度末を迎えます。学校内での活動のため、メトロのクリスマス集会も、9月の後半に開催されます。クリスマスプレゼントをご検討いただければ感謝です。

また、キャンプも年度替わりの休みの10月に開催されますので、それをクリスマスプレゼントにさせていただくこともできます。メトロを開催する学校の子どもの多くは、1日3度の食事もままならない状態ですので、キャンプのような楽しい外出を経験したことがありません。きっとすばらしいプレゼントになります。

朝昼夕、3食おなかいっぱい食事をし、プールで泳いだり、チームのゲームに参加したり、工作をしたり、聖書を学び、祈りの時間もあります。もしビル牧師を青年キャンプに行かせてくれた男性がいなかったら、メトロ・ワールド・チャイルドは存在しなかったかもしれません。キャンプへのご支援は、単なる金銭的支援ではなく、世界を変えることができる人生に投資しているのです。

詳細は、同封のお申込用紙をご覧ください。

お申込はネットで！⇒
<http://www.metrojapan>



締め切りは、8月25日(木)！

プレゼント

キャンプ

ケニアクリスマス

お申し込み締め切りは8月25日(木)
詳細は同封の申込書またはネットから ⇒

今月の引き落とし日！

7月19日(火)です。ご確認ください！



今月号の目次

- P2…ビル・ウィルソン師メッセージ
- P3…スポンサー募集のご案内／ウクライナからの報告
- P4…日本事務所からのお知らせ



決断の力

— 城壁を再建したネヘミヤのように —

ほとんどの方が、私の生い立ちをご存知でしょう。それでもやはり、いつでも思い巡らさずにはられません。アルコール依存症だった母が街角に私を置いて行ったことを。

母は立ち去り、戻ってはきませんでした。その街角に、食べ物も水もなく、3日間座っていました。何百人もの人が車で通り過ぎ、何百人もの人が側を歩いて行きました。昔のことです。ずいぶん昔のことです。

私とその街角に座っていたその3日間、おわかりでしょうか。誰でも私を連れて行くことができたのです。麻薬密売人や犯罪集団の一員、小児性愛者だった可能性もあります。1960年、アメリカが今とは違う時代のことです。

しかし遂に3日目の午後、一人の人が立ち止まりました。この人は車を道路の脇に停めて降りてきて、3日間座り続けていた私の所に歩いてきて、私の肩に手を置き、ただ一言「大丈夫かい？ 大丈夫かい？」と言ったのです。

私は子どもの頃、緊張すると吃音があったのですが、一生懸命彼に説明をしようとした。母親がいなくなると、お腹が空いて、…こうなると。

その人は、福祉局へ行ったり、伝道のための本を読む必要はありませんでした。重要なポイントです。1960年のありふれた街角でのことです。12歳の小さな男の子が、恐怖と寂しさと飢えを抱えて座っていました。そして一人の普通の男の人。普通のクリスチャンです。実は彼は仕事を辞めて、今にも死にそうな息子のいる病院に向かっているところでした。彼の家族が辛さと苦しみの中の戦いの中にいた時、それでも立ち止まる選択をしたのです！ そして「大丈夫かい？」と言いました。

私が「お腹が空いた」と言うと、ハンバーガーとコーラを買ってきてくれました。誰にかけていたのでしょうか、彼は電話をかけました。これは、運命的な出会いと言うべきものでした。出会って5時間後、彼は私を教会のワゴン車に乗せました。そして日曜学校のキャンプに行く費用を出してくれました。みなさん、これは全て5時間の内に起きたことです。

彼は私を知りませんでした。彼自身は、関わる必要性もないのに、それでも私を気にかけてくれたのです。彼は私をキャンプに送りました。私はそれまで教会に行ったことがありませんでした。祈り方も知りませんでした。しかし私は、日曜学校のキャンプに行き、そこで人生で初めて、イエス様の話を知りました。そして、何かが起きました。

司会者がマイクで子どもたち全員に、前に来るように言うのが聞こえました。ただイエス様と話すだけだと言ったのです。私は、それなら大丈夫だと思い、やってみました。私はイエス様に何を言ったか覚えています。「母は私を欲しくないんです」と、イエス様に言いました。「私の周りには私

を気にかけてくれる人は誰もいない」と、言いました。しかし、聖書にあるように、「もしあなたが私を愛してくださるなら、私の人生を捧げます」と。

1人の男の子が、イエス様の話を知りました。何故でしょう？ それはある一人の男の人が立ち止まることを選んだからです。彼自身、大変辛い状況の中で、私の日曜学校のキャンプの費用を出す決意をしたのです。1960年での17ドル50セントでした。私は後になって知りました。彼はその17ドル50セントを借りなければならなかったことを。彼は、私をワゴン車に乗せてキャンプに送るための費用を借りたのです。その一つの行動によって、私はイエス様の話を知り、私の人生は変えられました。

私たちの人生には様々な時がやってきます。新たな人生の歩み、新しい進路など。あなたは望み通りに選択できます。しかしながら、一人の男の人が立ち止まることを選んだこと、私に食べ物をくれたこと、持っていなかった17ドル50セントを借りてくれたこと、彼の息子が死にかけていること、すべてのパズルのピースが一つになりました。私がワゴン車に乗り込み、彼らが私をキャンプに連れて行ったことまでが。そして私が、イエス・キリストに人生を捧げる決意の瞬間、動き始めたのです。

私たちメトロの日曜学校は、インドでも、アフリカ大陸全体でも急速に広まっています。そして、フィリピン、ウクライナ、南アメリカに至るまで。どうしてこのようなことが起こり得たのでしょうか？ それは全て、私の友である人々が始めたことです。すべて普通のクリスチャンが始めたことです。私に初めてイエス様の話を知ることができるようにしてくれた人が始めたことです。その物語は、数十年間、世界中で続いています。

こうおっしゃる方がいるでしょう。「私は国を変えることはできません」。私は、あなたに国を変えるように頼んでいるわけではありません。一人の子どもに、私のような違いを生み出して欲しいと申し上げているのです。あなたにもできると祈っています。

城壁の上に立ち、シャベルと剣を手に取り、

私と共に再建を進める決断をしていただけませんか？

ご支援に、改めて感謝いたします。あなたの上に神の祝福を祈ります。

ビル・ウィルソン

スポンサー募集中！

世界中で、子どもたちがスポンサーを待っています

メトロのスタッフが、毎週教える子どもの数は、現在 25 万人を超えています。それに伴い、スポンサーを必要とする状況にある子どもの数も増え続けています。私たちは今、アフリカで新たに3ヶ国でメトロの日曜学校を始めるために最善を尽くしています。各国政府から、子どもたちを助けてほしいと依頼されたのです。

最近、アフリカでまた4人の子どもたちが首を吊って自殺しました。食べ物がなく、空腹に我慢できずに自ら命を絶ったのです。だから私たちは、イエスの御名によって働きを進めているのです。

子どもたちの現状を目の当たりにした若いスタッフの発案で、毎週月曜日に、50人の子どもにスポンサーを探そう、というキャンペーンが始まっています。あなたの周りの方々に SNS などでも情報をシェアしたり、直接お伝えください。心を動かされて、スポンサーになってくださる方が起こされるかもしれません。



スポンサーのおかげで、給食を食べられるようになりました！



ご支援の方法

以下のサイトで詳細をご覧の上お申し込みいただくか、直接日本事務所にご連絡ください。

<https://metroworldchild.jp/metrogenerallp/>



活動内容の紹介と申し込み

日本事務所 TEL:03-3561-1074



ウクライナの叫び！

— 戦場からの「ありがとう」

私たちは、現在最も戦闘の激しいドンバス地方に、防弾チョッキを新たに送ったところです。これまで、戦争に必要な防具を持たない若い兵士たちに 2,112 個を送ってきました。彼らはベストという表示を見ただけで大喜びで、ウクライナ語で、ありがとう、ありがとうと繰り返し言ってくれましたが、彼らの「ありがとう」を皆さんにも直接聞いていただきたかったです。祈り続けてくれた皆さん、そして、一人でも多くの子どもの手を差し伸べるために、このとてもとても長い旅と一緒に歩んでくれた皆さんにそのことをぜひお伝えしたかったです。

この戦争はもう4ヶ月以上も続いています。私は、小さな女の子とお母さんを、ワルシャワの病院まで車で運んで行きました。病院に連れて行った一人の少女は英語を話せませんでしたが、私が車を運転している間、ただ手を振っていました。彼女は、皆さんにありがとうと言おうとしていたのです。ワルシャワの病院でその少女を見送ったとき、彼女は私に「ありがとう」と言ったのではなく、みなさんにありがとうと言ったのだということをご理解ください。やるべきことはたくさんあります。あなたも、私も、それを知っています。彼女から、検問所の兵士から、そして地上部隊からのありがとうを、再度あなたにお伝えします。

我々はウクライナで最善を尽くしていますし、これからもそうするつもりです。共に歩んでいただき、本当に「ありがとう」。



日本事務所からの重要なお知らせとお願い

！ プレゼントの価格変更！

急激な円安が続いており、やむを得ずプレゼントの金額を変更させていただきました。皆様のご負担が増えないようにと願っていますが、日本事務所で差額を負担できない状況になっていますので、やむを得ず円の状態に応じて価格を変更させていただいています。

日本事務所を開設した2005年当初よりも円安になっておりますので、どうかご了承ください。円が大幅に回復しましたら、また価格を下げさせていただきます。

年末に向けて、ケニアの学用品や、アメリカの感謝祭、各国のクリスマスなどがありますが、その都度円の動向を確認してから金額をご連絡申し上げます。

手紙の翻訳について

子どもからの手紙などの翻訳を毎回ご希望の場合は、日本事務所にお知らせください。次回からは日本語か韓国語訳を同封してお送りします。

毎回翻訳をお送りしはじめてから「子どもの状況がより詳しくわかるようになってよかった」というお喜びの声もいただいています。

また、子どもへの誕生日カードや手紙なども、日本事務所で翻訳いたします。日本語の手紙を以下の青枠内の日本事務所までお送りください。

翻訳のご奉仕者も与えられていますので、ご遠慮なさらずお送りください。

なお、取り扱いが中止されていたケニア宛の郵便物も、取り扱いが再開されました。

！ 新規スポンサー募集中！

レポートの中でもご紹介していますが、新規スポンサーを常時募集しています。

ウクライナ戦争の長期化により、世界経済は大変な状況になっています。日本でも、円安のために物価高が続いていますが、他国はもっと大変な状況に陥っています。深刻な物価上昇が続き、貧困地域の状況は悪化し続けています。

さらに、メトロの働きは世界中で急激に広がっており、スポンサーを待つ子どもは毎日増え続けています。どうぞ、身近な方々にメトロをご紹介ください。

紹介&申込サイト⇒



<https://metroworldchild.jp/metrogenerallp/>

日本事務所よりごあいさつ！

驚くほど早い梅雨明けで、一気に夏が始まりましたが、お元気でしょうか？ さすがに台風の発生やその他の状況で雨も降っていますので、水不足は何とか回避できるのではと期待しています。

天変地異や各地での様々な形での争いや戦争、権力の集中など、世の終わりを予感させる出来事が続いています。このような時にこそ、私たちは祈り、神様の良き業のために用いられる者となりたく願います。

私たちは取るに足らない存在であっても、私たちと共におられる主イエス・キリストは、全知全能の御力を持って私たちを守り、良い働きをさせてくださいます。

メトロの働きを支えてくださる皆様の愛を心から感謝し、主からの守りと祝福がございませうと祈ります。

日本事務所代表 万代栄嗣(まんたい えいじ)



メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061
東京都中央区銀座 4-5-1
教文館 6階 TFC内
電話 03-3561-0174
FAX 089-925-1501
メール metrojapan@mission.or.jp
URL <https://metroworldchild.jp/>



すべてのお振り込みは、下記宛にお願いいたします。

ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金 0041610

郵便局：記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン